

前立腺がんの陽子線治療 保険適用に

関西の新設2院

最先端の陽子線治療は、建設コストが高いために国内には少数の施設しかなかったが、関西圏では相次いで2施設が開設された。いずれも利便性もよく、通常の生活をしながら通院治療ができる。

高精度の治療装置導入



大阪陽子線クリニック写真＝大阪市此花区春日出中1丁目27の9、電話06・6462・1888。

医療法人伯鳳会が大府内で初めて開設した施設で、2017年11月に治療を開始した。前立腺がんの患者を中心に年間300人から400人の治療にあたり、高精度の陽子線治療装置を導入する。

大阪陽子線クリニック

置上台を2台設置。さらに複雑な照射方向を調整し、がん病巣への集中度を高め、周囲の正常組織への影響を抑える強度変調放射線治療装置（VMAT）も1台備え、両者比較の上で治療を実施している。兵庫県立陽子線治療センターの技術的な支援を受けながら、安全で適切な放射線治療を行っている。

※大阪陽子線クリニックは無床診療所だが、大阪明館病院（大阪市此花区西九条）やほくほう会セントラル病院（兵庫県尼崎市）と医療連携している。

県立こども病院と一丸

兵庫県立陽子線治療センター（兵庫県の市）の付属施設として2017年12月、ポートアイランドに開設した。隣接する県立こども病院と連携し、小児がん患者に重点を置く全国初の陽子線治療施設だ。成人に



神戸陽子線センター写真＝神戸市中央区港島南町1丁目6の8、電話078・335・8001。

神戸陽子線センター

陽子線治療施設だ。成人に對しても陽子線治療を行い、情報発信基地となることを目指している。県立陽子線治療センターは01年に陽子線と炭素イオン線の両方の治療が行える世界初の施設としてスタート。これまでに約8500人を超す全国屈指の治療実績を誇っており、同センターの豊富な経験やノウハウを生かし治療を提供する。この陽子線センターは、渡り廊下で直結した県立こども病院と一体で運営、小児がんの診療体制をより充実させている。

施設内の壁には小児患者の治療への不安を少なくしようと童画やイラストなどが描かれている。同センターの総務専門員、亀井さんは「小児患者の表情を見るときは胸が痛みます。子どもたちの心に寄り添った施設です」と語る。

日々進化している最先端の医療技術をめぐって、公的医療保険の適用とすべきものは何か。「先進医療」として関心が高い前立腺がんなどに対する陽子線治療について今年度から公的医療保険（いわゆる健康保険）が適用された。これまで約300万円かかっていた治療費に公的医療保険が適用されることで、患者や家族にとっては朗報だ。「先進医療」からの公的医療保険への適用の現状について厚生労働省保険局医療課長、迫井正深さんに聞いた。【聞き手・池田知隆】

確かなエビデンスあらば



さこい・まさみ 1989年、東京大学医学部卒業（外科臨床医）。92年、厚生省入省。米国ハーバード大学大学院に留学後、広島県福祉保健部長、厚労省保険局企画官、老人保健課長、地域医療計画課長を歴任。2016年6月から現職。

「先進医療」とはどのような医療を指すのでしょうか。医療費をめぐっては医療の安全性・有効性を確保しながら、患者の負担をできるだけ抑えることが重要です。さらに日進月歩の医療技術について、現場の動向や意見を取り入れながら、可能な限り選択肢を広げ、保険診療の対象となっていない最新技術の保険導入を考慮していく必要があります。

このため、現時点では保険外の医療技術のうち、安全性・有効性を確保するための一定の基準に適合する技術について、「先進医療」として将来的な保険導入のための技術評価を行うものです。

「先進医療」の公的保険への導入はどのように決められているのでしょうか。「先進医療」として実施されている医療技術を保険導入するには、有効性・安全性を示すエビデンス（根拠となる実績や治療成績など）が求められます。各分野の専門家がよる会議でこれらのエビデンスを検討され、適切なエビデンスを伴う医療技術は、関係学会の意見なども合わせて、中央社会保険医療協議会での議論を経て、保険導入されます。今回の前立腺がんに対する陽子線治療も同様の経緯で保険導入されました。

「前立腺がんなどに対する陽子線治療では、これまで多額の個人負担が必要で治療データの集積が難しかったのでは。」

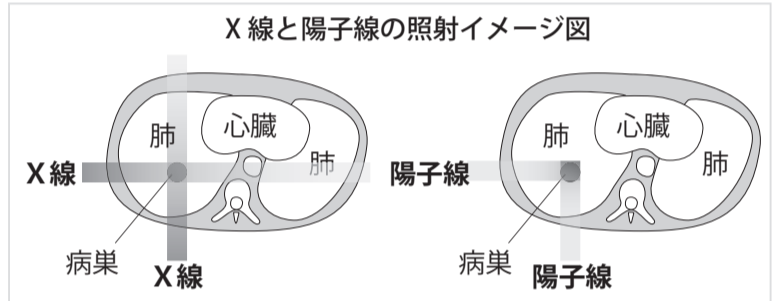
先進医療と公的保険

厚労省保険局医療課長 迫井正深さんに聞く

エビデンスを収集する治療研究の費用は、決して少額ではありません。保険導入前の治療として一連の費用全額を、実施施設の研究費や対象患者ご自身の負担とする、円滑なエビデンス集積が困難になります。そのため「先進医療」に指定された医療技術と実施施設については、「先進医療」に該当する技術部分の費用を除き保険が適用され、患者や施設の費用負担が軽減されています。

「他の疾患に対する陽子線治療の保険適用についてはいかがですか。」

現在、「先進医療」として、陽子線治療の対象となっているものに肝細胞がんや肺がんがあります。これらについても引き続き、保険導入のための評価を行っています。



陽子線治療 陽子線は、X線と異なり体内を一定程度進んだ後、急激に高いダメージを与えて停止する。この性質（ブラッグピーク）を利用することで、周囲の正常細胞に与える影響を少なくするように線量を調整できる。このため合併症のリスクを最小限に抑えた治療ができる。陽子線治療は2016年から「小児腫瘍」について保険導入され、2018年から「限局性前立腺がん」「頭頸部悪性腫瘍（扁平上皮がんを除く）」「切除困難な骨軟部腫瘍」が追加された。

鼻の日セミナーに400人招待 大阪・梅田で8月5日

大阪府耳鼻咽喉科医学会、日本耳鼻咽喉科学会大阪府支部と毎日新聞社は「鼻の日（8月7日）」にちなんで8月5日午後1時半から、大阪市北区梅田3の毎日新聞オーバルホールで、「第8回鼻の日セミナー」（大阪府、大阪市、大阪府医師会後援）を開きます。入場無料ですが、事前応募が必要で、抽選で400人を招待します。

同耳鼻咽喉科医学会理事の松田泰明さんが「鼻の構造とはたらき」▽大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科講師の乾崇樹さんが「いろいろな副鼻腔炎～特徴と診断、治療～」▽近畿大学医学部耳鼻咽喉科教授の土井勝美さんが「アレルギー性鼻炎の診断と治療」――のテーマでそれぞれ講演した後、事前に参加者から寄せられた質問に答えていただきます。

申し込みは、はがきまたはファクスで郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、職業、電話番号、参加人数、質問があれば質問内容を書いてはがきは〒530-8030 大阪北郵便局私書箱321号「鼻の日セミナー」係、ファクスは06・6346・8665の同係へ。7月23日必着。当選された方には参加証を送ります。問い合わせは毎日企画推進センター（06・6346・8661、平日10～17時）まで。